

環境審査顧問会自然環境分科会  
議事録

1. 日時：平成18年1月6日（金） 14：00～14：50

2. 場所：経済産業省別館11階1120共用会議室

3. 出席者：

（顧問）

阿部主査、渡辺副主査、川路顧問、河野顧問、藤原顧問

（経済産業省）

高取統括環境保全審査官、金子環境審査班長 他

4. 議題：(1)環境影響評価準備書の審査について

・東ソー(株)南陽事業所第2発電所第6号発電設備建設計画

5. 議事概要：

(1)開会の辞

(2)配布資料の確認

(3)東ソー(株)南陽事業所第2発電所第6号発電設備建設計画環境影響評価準備書に係る審査に当たり、事務局から質問事項への回答、補足説明資料、審査書(案)に基づき説明がなされた。

<質問事項への回答及び補足説明資料について>

【顧問】盛土したところは景観が非常に良くなっている。No.1排水口、No.2排水口がある辺りの景観は何も変わらないのか。

【経済省】準備書8.1.6-17ページの第8.1.6-5図(4)がNo.1排水口辺りの遠景を示したモニター写真である。手前に仙島があるので発電所の周辺は分からないが、煙突が若干見える。

【顧問】No.2排水口辺りの景観はどうか。

【経済省】No.1排水口、No.2排水口付近は新たな緑化はしないので、海側からの景観として、今回新たに盛土して緑化する南西側からの景観を示している。

【顧問】発電設備、事務所等は何メートルくらいの高さか。既設設備と同じくらいの高さになるのであれば変化は煙突くらいかと思うが。

【経済省】準備書8.1.6-15ページにモニター写真があるが、煙突は高さ180メートル、タービン建屋は高さ28メートルである。

【顧問】黄色い建物と白い建物が目立ちすぎるのではないかと。周囲に溶け込む色としていただきたい。色彩的に今まで黄色というのはいなかった。通常は周囲に溶け込むセンスのいいものということで審査していたが、目立ってみせる効果を狙っているのか。

【顧問】色彩に関して地元の意見を聴く場などは設けたのか。

【経済省】準備書2-10ページに完成予定図がある。周辺の色彩に合わせており、黄色ではなくアイボリーということなので写真ほどきつい色ではないと思うが、事業者を確認する。

<審査書(案)について>

【顧問】3ページ及び5ページに高木及び低木を配置するとあるが、中低木や草地もあるのでそれらも含めた表現としていただきたい。

【経済省】拝承。

- 【顧 問】5ページで、イソヒヨドリの記述について、原状回復とあるが、「原状」はこの字でよいのか。
- 【経産省】確認する。
- 【顧 問】「影響がないものとする」と書いているが、証拠もなく同じ書き方になっている。例えばミサゴなどは温排水が出れば魚の分布の変化で採餌環境に影響がある可能性がある。ウミネコはハンティングが確認されていないとしているが、わずかな時間の観察で影響がないと大胆な推察で片づけているところが気になる。こういう調査をしてこういう結果が得られたら、こういう評価をする、というのが示されていないことにも問題がある。どんな規模の発電所でも全て「影響がない」ということになってしまうのが不思議であると感じている。
- 【顧 問】生態系について、準備書では飛翔図で行動領域を算出して、「そこが改変されないから、餌場になっていないから」、「影響はない、少ない」などという書き方になっているが、「影響はない、少ない」という根拠がどこにもなく、それがベースになっているので審査書もこうになってしまう。餌の環境や生息環境などを定量的に捉え、詰めた解析をする必要がある。実際には現状の調査方法が目視観察であり、餌量調査といっても具体的な調査項目も挙がっておらず、双眼鏡で判定できた範囲のことなのでやむを得ない面もあるが、もう少し的を絞ってできるだけ定量的な評価を充実すべきなのではないか。「影響はない、少ない」という根拠に相当する部分を評価書で書き込むようにしてほしい。
- 【顧 問】因果関係を誰が見ても理解できるように、できるだけ定量的な評価ができるといい。例えば、ダムや道路建設の際に猛禽類の行動圏内の1%が水没するとか3%が道路用地で消えるが大きな影響がない、という評価がされたりするが、その3%が重要な場所であるかどうかの評価が行われていない。最近では動物の行動圏内の水田や林地などの環境要素別に餌現存量を調べて、その消える3%の環境の中にどれくらいの重量の餌があるのかという評価を、食べている方の餌量、つまり必要餌量から推定して影響を判定するという手法があり、それなら見る方も納得がいく。ミサゴなども、飛翔の軌跡図だけだと海と河川の行き来で真っ黒になるが、どこで餌を捕ったかというのに注目すれば、その水深、流速、濁度など、ここで捕るといのが浮き彫りになる。水温の変化によって採餌場が変わるなど、因果関係を踏まえた予測・評価ができる。やり方としてはあるのもう少し工夫してほしい。
- 【顧 問】竹島は計画地から何メートルか離れているが、サギの集団繁殖地がある。サギの集団繁殖地は鷺山と呼ばれて住宅の近くにあることもよくある。周りの住宅が無關心な時は毎年繁殖が続くが、渡来してきた頃に周りに動きがあると敏感になり、繁殖に影響が出ることがある。工事の時期ややり方を検討されたいのではないかと。竹島自体はいじらないということなので、繁殖地を少なくするというのではないのだろうが、少し影響があるのではないかと気がする。
- 【顧 問】ハヤブサは煙突で抱卵が確認されているとあるが、人が巣をつけたわけではなく勝手に営巣したのか。最近ミサゴやハヤブサの巣をつける、というのが結構行われており、外国などで非常に多くの例がある。最近では日本でも電力会社の送電線の鉄塔などにハヤブサの巣をつけて毎年繁殖した例がある。
- 【経済省】ハヤブサにより作られた巣であると聞いている。
- 【顧 問】安定した巣ならよいが、風で飛ばされたりするので、新設する煙突にしっかりした巣を作ってやるなどしたらどうか。「影響ない」で片づけるのではなく一つでもプラスになることをしてやったらよいのではないかと。今の社会情勢では、巣をつけることは企業の社会的評価も高まるので良いのではないかと。
- 【顧 問】文章上は景観について問題ない、となっているが、地域で色彩についての要望がなければ自由でいいという考え方ではなく、21世紀のエネルギー立地においては一定のアイデンティティーを持って指導していただきたい。横浜市では「際だった色でないこと」「目立ちすぎない色であること」と決まっているが、こ

の発電所は写真で見て既に目立っている。周りに白が多いから全部白で、ということではなく、これから造るものについては、誰が見ても目立ちすぎずに気持ちがいい色、というものを選び、そうした景観が公園からも見えるようにすべきである。今後の塗り替えの際にもそうした色に変わっていく。文章上は問題ないとしているが、実際にはモニタージュ写真で違和感があるので修正する必要がある。

【顧 問】5ページ11行目の補食の「補」は「捕」の誤り。

( 4 ) 閉会の辞

以上